

魔女のミルクグレーテ スイス

昔むかし、あるところに、ミルクグレーテという年とつた魔女がいました。

ミルクグレーテは、雌牛を一頭しか持っていないのに、五十頭分ものミルクをとることができました。

あるとき、近所の牛飼いがそれをふしぎに思っ、ミルクグレーテの牛小屋にこっそりしのびこみました。かくれていると、ミルクグレーテが大きなミルク桶をせおって入ってききました。桶の中には、ミルクがほんの少し入れてありました。ミルクグレーテは桶をおろすと、手でまじないをして呪文をとなえました。

魔女の宝よ 牧人の貢よ

どの雌牛からも二さじ分だよ

すると、桶はとびきり上等のミルクでいっぱいになりました。ミルクグレーテはまた桶をせおって、牛小屋から出ていきました。

牛飼いはその呪文をすっかりおぼえると、大よろこびで家に走って帰りました。そして、自分も牛小屋でためしてみることにしました。ただ、二さじでは満足できないで、こうつぶやきました。

魔女の宝よ牧人の貢よ

どの雌牛からも二桶分だよ

すると、桶はミルクでいっぱいになりましたが、やがてミルクは桶からどんどんあふれだしました。まもなく、牛小屋も家もミルクにつかり、とうとう牛飼いはミルクにおぼれて死んでしまいました。

ミルクグレーテは、牛小屋の棟木にすわって、くすくす笑いながらいました。

「これで、あいつもわしのまねはできなくなつた」

原話…『グラフィックカラー世界の民話2 フランス・ベルギー・スイス』（研秀出版）

再話… 村上郁